

東広島学校通信

ガッツ!

東広島市観光マスコット「のん太」



VOL.21



発行：東広島市教育委員会
学校支援センター
〒739-8601
東広島市西条栄町 8 番 29 号
TEL 421-1155 FAX 420-0914
発行日：令和8年 2月20日

☆この広報誌は、学校に関する東広島市教育委員会の施策や事業、各学校の取組などを皆様にご覧いただきたいとの思いから作成しています☆

学校ナビゲーション

広島大学教職大学院との
コラボ企画



坂小学校
花野



古田中学校
堀



呉三津田高校
中田

私たちは、広島大学教職大学院で学んでいる県内の現職教員です。今回は、中央中学校、三ツ城小学校、寺西小学校を訪問し、校長先生の学校づくりへの思いと各学校の取組について取材させていただきました。

地域とともに子どもたちの『志』を温かく育む

～児童生徒の主体的な学びを支える土壌づくり～

東広島市立中央中学校 「～和心・礼節・進取～心をつなぎ、未来へ挑む学び」



中央中学校では、「生徒一人一人が、自分の力で人生を切り拓いていける人に育ってほしい」という思いのもと、校訓「和心 礼節 進取」を基盤とした教育を通して、美しい挨拶や思いやりの心を育み、学校全体で目標達成に向けてやりきる文化を築いています。

小島弘之校長先生は、学校経営を航海にたとえ、船長として進路を示しながら、教職員一人ひとりが力を発揮できるよう、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。また、保護者や地域からの温かな支えという「風」を受け、教職員と協働しながら、生徒を「自主・自律」という目的地へと導く航海を続けています。夢や志、目標を持ち、その実現に向けて努力を継続してほしいと生徒たちに力強いメッセージを送っています。また、「継続は力なり」「凡事徹底」を合言葉に日々を積み重ね、楽な道ではなく、あえて厳しい道に挑戦し、困ったときには、一人で抱え込まず相談し、仲間と協力できる力を育む教育活動に取り組んでいます。

「和心」を育む豊かな教育活動

中央中学校では、開校以来歌い継がれている「日本の歌『四季』」や和室で箏曲の授業が行われるなど、日本の伝統文化の大切さを自覚するだけでなく、「おもてなしの心」や「礼儀正しさ」など、他者を思いやる日本の素敵な心をとても大切にしています。授業開始時には1分間の立腰・黙想で姿勢と心を整え、気持ちの揃った挨拶が各教室から廊下に響きます。

言葉で繋ぐ読書の輪「ポップ作成・ヒブリアトル」



明るい図書室には、思わず本を手にとって読みたくなる工夫が見られます。季節やイベントなど、テーマを定めた特集展示のほか、本棚の側面には校長先生お手製の展示棚が設けられ、図書委員お薦めの本が表紙の見える形で飾られています。また、壁面には生徒が作成した色鮮やかなポップが多数掲示され、来室者を惹きつけます。全校でヒブリアトルにも取り組み、読書活動を促す環境が整えられています。

伝統『黙動流汗清掃』



黙って集中。よく動き、汗を流して学校を整えます。自分たちの暮らす環境と丁寧に向き合い、整えることを意識しています。

自分たちの場合は、自分たちでつくる。この時間が、生徒の主体性と協働性を育てています。

三ツ城小学校



「～心に刻む3つの「つ」、すべての児童の「心が和む」学校づくりを～」

三ツ城小学校は、校訓「和 なごみ」、学校教育目標「つづける(挑戦力)」「つながる(協働力)」「つくす(貢献力)」のもと、学校での経験が子どもたちの生涯を通して生きるような学校づくりを目指しています。坂本博司校長先生は、すべての児童が「学校に行ってよかった」と思えるよう、児童一人一人の個性を尊重し、多様性を包摂する教育を推進しています。学校教育目標を実現するために大切にしていることは、常に新たな挑戦を続けていくことです。3つの「つ」からなる学校教育目標は、「児童にとって日常的に使われる合言葉にした」という思いから、今年度新たに設定されたものです。日々の教育活動にはその合言葉が生かされています。例えば、児童が自主的に課題に取り組む「チャレンジデー」を設けることによって、児童が自分自身の課題に向き合い探究する学びの場を整えました。児童が互いの挑戦を認め合い、励まし合う「つくしちゃんカード」という取組を行うことで、自己肯定感や自己有用感、自信や他者へ貢献する力を育てています。このような教育を通して成果として児童の成長や変容がいろいろな場面で見られています。その一例として、家族旅行の行程や予算設定等について児童が企画を行い、保護者へのプレゼンテーションを通して旅行を実現させ、そのプロセスを一冊のレポートにまとめるという、まさに課題発見解決学習を自らの思いで実践する事例があったということです。また、校舎は「エコスクール」として設計され、児童が学校での生活を通じて、グローバルな視点での環境づくりを学べる多くの工夫がなされており、大変充実した教育環境になっています。

寺西小学校



「～感謝の心を根っこに、将来社会で活躍できる人材を育てる学校づくりを～」

寺西小学校は、「夢と志をもち、主体的・協働的に学ぶ児童の育成」という学校教育目標のもと、変化の激しい社会の中でも自分らしく生き、将来にわたって活躍できる力を育む学校づくりを進めています。小川寛校長先生は、教職員とともに子ども一人ひとりの実態に目を向けながら、工夫と改善を重ね、学校のビジョンを踏まえた研究構想の更新に継続的に取り組んでいます。学校教育目標の実現に向けて大切にしているのは、脳科学的な視点(右脳と左脳のバランス)を踏まえ、論理的に筋道を立てて考える力を育む算数科と、感性やひらめきを引き出す図画工作科の両面から子どもを支えることで、AI時代の到来等、どのような変化にも柔軟に対応し、粘り強く挑戦し続ける児童の育成へとつながっています。こうした学びを支える教育の柱として、教職員が対話を重ね、子どもの実態を起点に見いだしたのが「考動力」「持続力」「挑戦」の3つの力です。これは、子どもたちが自らの成長を思い描くための目指す姿として共有され、学校全体の合言葉となっています。さらに、教材研究や系統性を意識した協働的な授業づくりを通して協働する必要性を大切に、学んだことを次の学習や実生活に生かす力を育てています。総合的な学習の時間等では、太鼓や金管楽器による「創作表現～大地の響き～」を伝承し、地域とともに歩む学びを通して子どもたちの誇りと愛着を育てています。寺西小学校では、子どもと教職員がともに成長しながら、将来社会で活躍できる人材の育成を目指しています。

地域とつながる学び

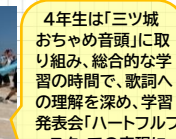
～総合的な学習の時間～



6年生では、中国地方最大級の前方後円墳である三ツ城古墳の学習を、創作表現「三ツ城物語」の制作へ繋げ、東広島市が大切にしている「一校一和文化学習」を継承しています。



毎年恒例のふれあいデー「もつつき」の様子です。地域の方との交流を大切にしています。



4年生は「三ツ城おちゃめ音頭」に取り組み、総合的な学習の時間で、歌詞への理解を深め、学習発表会「ハートフルフエスタ」での表現に生かしています。

クラスの結束を強める

～三ツ城カップ～

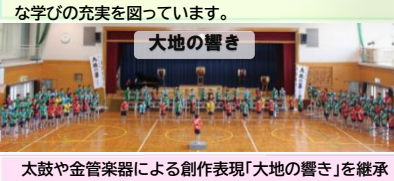


9月に学年ごとにクラス対抗のドッジボール大会(三ツ城カップ)が行われ、大変盛り上がりしました。この行事は教育目標の実現のために教職員の発案で企画されたもので、大会本番の盛り上がりだけでなく、練習に取り組む中で学年や学級の親睦も深まったことから児童や保護者にも大変好評でした。

図画工作科「みんなでつろう ねん土ランド」



研究教科の1つ図画工作科では、人と関わり、様々な表現を磨いていくという教科の特性を生かし、協働的な学びの充実を図っています。



太鼓や金管楽器による創作表現「大地の響き」を継承し、音楽等を通して豊かな心の涵養を目指しています。

「ありがとう」の思いを言葉に



「ありがとう」の言葉が相互に行き交う「ありがとうのサイクル」を大切にしています。「ありがとうを伝えること」に加え、相手から「ありがとう」と言われるような自分の姿に目を向けながら、日々の生活を送っています。子ども達は、感謝の気持ちを言葉にして伝えるとともに、相手の立場を考えて行動する中で、思いやりのある関わりを広げています。この取組は学校だけでなく、家庭や地域へと広がり、温かなつながりを育てています。

先生たちと一緒に授業もしますよ。

特集：保健室と養護教諭

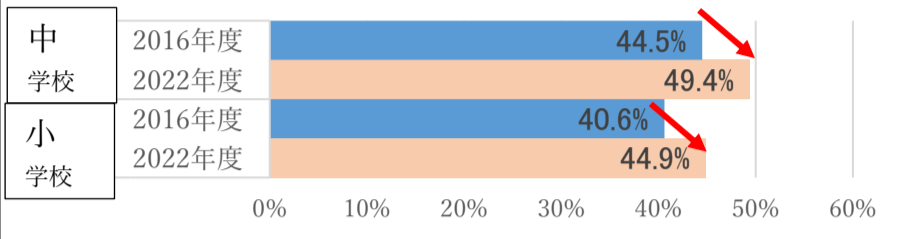
誰でも一度は行ったことがある保健室。そこで子どもたちを迎えるのが、「児童の養護をつかさどる（学校教育法）」養護教諭 — 保健室の先生です。今回は、その保健室の先生たちの仕事と願いに迫ります。

■保健室は、学校保健安全法に基づき、健康診断や健康相談、保健指導、救急処置などを行うため、小中学校に設置を義務づけられたものです。

■養護教諭は、学校教育法で小・中学校に配置されることが定められ、「保健室の先生」として、上記に加え児童生徒の心理的ケア、環境衛生管理など、**学校全体の保健活動を担う専門職**です。

注：学校教育法に基づき、幼稚園では養護教諭を置くことは努力義務とされ、2015年度の調査では、幼稚園での養護教諭の配置率は2.5%と非常に低く、ほとんどの幼稚園で養護教諭が置かれていないのが現状です。また、保育所への養護教諭の配置は、法律に定められていません。

保健室を訪れた理由として「主に心に関する問題」と答えた子どもの割合



左のグラフは、公益財団法人「日本学校保健会」が2022年度に全国の小中高等学校3495校の養護教諭等に実施した調査結果の一部です。人間関係や不眠、摂食障害など心の問題で保健室を訪れる子どもは増えています。同調査では、保健室を利用する児童生徒数の平均は小学校15.8人、中学校は12.6人となっています。（令和7年12月読売新聞より）

密着！保健室の先生のある一日

末田 秀美 養護教諭
(八本松小学校)

7時
8時
9時
10時
11時
12時
13時
14時
15時
16時
17時
18時



朝の児童への個別対応

7:20 出勤、教室に入りづらい児童を受け入れる。
8:03 登校後保健室に来ていた児童を教室へ連れていく。
8:08 けがをした児童を手当て。登校に気持ちが向きにくい親子に声をかける。(8:15にも)
8:12 欠席情報を教室に伝えながら、健康観察表を取りに来ていない学級へ届ける。
8:20 登校後保健室にいた児童を教室まで送る。その後、特別支援学級担任と打ち合わせ。
8:30 一人の児童を連れて担任が来室。湿布をして寄り添って担任と本人の話を聞く。10分後教室へ戻る。
8:47 毎朝保健室をのぞく児童が今日も来室したことを担任に連絡する。その後、別の児童と外でジャガイモを掘る。
8:52 SSRに児童を迎えに行く。その後児童3人と折り紙をする。

8:55 各学級健康観察表を回収保健室の情報と照合。

9:32 欠席状況を市教委に報告。

10:16 大休憩時ケガをした児童と教諭の手当て。

10:35 教室で気持ちが不安定になった児童への対応。末田先生の机の横でテストをする様子を見守る。

11:53 手当や相談に複数の児童が来室。特別なケアが必要な児童も来室、対応が続く。

12:40 全校で給食が始まったことを確認して、職員室で給食。

13:00 不登校傾向のある児童がやってきてその話を聞く。

13:10 掃除時間、初めて保健室の当番になった2年生3人に一通り方法を教えつつ、一緒に掃除する。その間に「トイレ紙をください」とトイレ掃除の子が来て対応する(写真)こと4度。

13:45 午後の授業開始後、担任が連れてきた児童をクールダウンしながら一緒に工作

14:20 「急な対応で職員室が無人になる」との連絡を受け、職員室で業務。

14:40 保健室を安心の場所にして児童を連れてきた保護者から「子どもが保健室に入れそうにない」と聞き、車まで行ってその児童に声をかける。

15:15 6校時が終わり、今日保健室で過ごした児童たちが来て、末田先生と話をし帰る。

15:50 保健室で保健安全部会の会議。会議の後には職員室で気になる児童の様子について情報交換する。その後、保健室で複数の先生の相談に乗る。先生たちからは「いつも冷静に聞いてもらい気持ちが柔らかくなる」との声も。



17:20 1日の記録整理、翌日の予定確認等、事務書類を作成。

18:00 退勤



■保健室の先生の朝は忙しい。朝から体調不良を訴える子は珍しくないし、登校中に転んでけがをした子の手当でもあるが、保健室を安心の場に行っている子や教室で落ち着かなくなった子たちもやって来るからだ。

■この日も子どもたちの登校前に出勤した末田先生は様々な子どもたちに接する。朝の出席確認は学校にとって重要な仕事。体調や心の不安で落ち着かない子や保護者と一緒に登校する子に対応しながら、10時までは市教委に出欠を報告しなければならぬ。

保健室の先生になら自分の思いが伝えられる子、落ち着いて話ができる子、そんな子たちを迎える末田先生の表情はいつも柔らかい。決してオーバーなアクションはないが、子どもたちはいつの間にかしっとりとした保健室の空気に癒されていくようだ。

■この日は雨、外遊びができない日はケガをする子は少ないようで、休憩時間はいつもより少し余裕があったが、それでも、様々な対応を続けているうちに給食配膳の時間になる。全校の給食の安全を確認して自分が食べ始めたのは12時40分。続く掃除の時間には保健室周辺のパソコンルームや廊下も受け持つ。

■一日の間に教室との連絡は何度も取る。緊急でなくても子どもについての情報をリアルタイムで担任と共有することは養護教諭の基本だ。SSR(注)やカウンセラーとの情報交換も毎日行う。子どもたちが下校すると「先生方と情報交換」する貴重な時間になる。この日は保健安全部の会議に参加した後、職員室で何人かの先生と話した。個人的な悩みを保健室で聴くこともある。それが一段落してからが養護教諭としての事務処理の時間。給食のアレルギー対応はミスが許されない。二重三重にチェックする体制をとるための事務はいかにげんにはできない。

■日々、様々な悩みや不安を抱える子どもたちを受け入れている末田先生は「保健室で起きることを保健室だけのことにしたくない」のだと話す。「教室での先生方との協働で子どもたちを育ててこそ、子どもたちのためになるから」。ふと保健室の隅を見ると段ボールを切り取って自作した小さなチリトリがいくつもあった。子どもの嘔吐物の処理のためだという。とにかく時間との勝負で、その場の衛生状態を復帰させる大事な小道具なのだ。

■こうして末田先生が退勤したのは、この日18時だった。

注:SSR(スペシャルサポートルーム)

不登校及び不登校傾向児童生徒の社会的自立を促す校内特別支援教室



自作のチリトリ

アドバンスフレッシュマン・養護教諭

採用後3~4年を経過後、東広島市に赴任して活躍している若い先生を紹介。

- ① 小学校・中学校の思い出…小中学校では何とんでも運動会が一番心に残っています。特にみんなで声をからした応援合戦は、全校で盛り上がりつつも楽しかったことを覚えています。
- ② 気分転換…友達とフットサルで汗を流すこと。(体を動かすことが好きで、小・中・高校ではサッカー部、大学ではフットサルをしていた)
- ③ 最近びっくりしたこと…この冬、朝起きて凍ったベランダを見てびっくり!(暖かいところで生まれ育ったので初体験)
- ④ 趣味・マイブーム…パン泥棒のグッズ集め、ヨガ・ピラティス
- ⑤ 座右の銘…「幸せはいつも自分の心が決める」
周りの環境ではなく、自分のやりたいことを精いっぱいやることで幸せを感じたい。(小学校の担任の先生の言葉)

「幸せはいつも自分の心が決める」-自分のやりたいことを精いっぱいやること-

平岡 美空 (ひらおか みく) 養護教諭 (河内中学校)

東広島市に転勤して戸惑うことも多かったのですが、周りの先生方に支えられ、乗り越えることができました。また、学年部の一員に加わり、チームで様々な行事に取り組んだことで、生徒との距離も近くなり、「養護教諭としての専門性もこれまでより発揮できる」と思えるようになりました。東広島市はインターネット等のシステムが整っていて、他校の養護教諭の先生との情報交換も容易に行うことができ、仕事のスムーズさにつながりました。

私は子どもの頃、小中学校での生活が毎日とても楽しく、学校へ行くのが大好きでした。振り返ってみると、友達と協力して活動することが好きだったように思います。特に、運動会(組体操・ダンス他)は、良い思い出です。そんな大好きだった学校で、成長していく子どもたちと関わる仕事が出来ました。願いが叶って養護教諭として働く今、生徒が楽しく充実した学校生活を送ることができるよう、一人一人に寄り添い、安心感を与える養護教諭になりたいと思っています。

生徒の皆さんに伝えたいことがあります。勉強や部活、友人・家族関係等悩みや困りごとがある時は、誰かに相談しましょう。助けてくれる人が必ずいますよ。



保健室からのメッセージ：養護教諭の願い

ガッツ編集部では、12月、市内小中学校の保健室の先生たちにアンケートを実施しました。内容は「子どもたち・保護者・同僚の教職員、それぞれに伝えたいと思っていること」です。その主な内容を紹介します。

子どもたちへ

「睡眠・食事・運動」が最強の味方



今の生活習慣が、未来の元気な自分をつくれます。



自分と自分の命を大切にしよう

自分を大切にできる人は周りの人も大切にできます。

困ったときは、いつでも保健室へ

保健室は、けがと心の両方をリセットできる場所です。



保護者の皆様へ

子どもの話に、手を止めて耳を傾けて

子どもが SOS を出せる関係づくりが家庭の一番の安定剤です



「生活リズム」は未来への最高のプレゼント

スマホの使い過ぎは睡眠不足につながります。



日々の「小さな変化」に気づいてあげて

生活習慣の乱れは、子どもの力だけではなかなか直せません。



先生方へ

一緒に子どもを支える「チーム」でいたい

養護教諭一人ではできないことには限りがあり、連携が不可欠です。



教室での些細な情報でも共有を

こまめな情報共有があつてこそ子どもの一貫した対応ができます。

先生自身の健康が第一です

先生が笑顔なら子どもたちも笑顔になります。



© NotebookLM

「やりたいことを見つけてそれを言葉にしていけば、実現の可能性はあるよ！」



小田由香養護教諭（寺西小学校）

＜子どもたちに＞

・自分がやりたいことを見つけてほしい。そのためにできる努力を。周りの人に何を言われても、小学生や中学生の間は自分がやりたいことを言葉にして、文字にして行動していれば、実現できる可能性はあります。自分の望むことにならなくても、それに近づく事はあるし、やりたいことを叶えるために努力してきたことは生きていくうえで無駄ではなく、役に立つことがあります。

＜保護者の方に＞

・子どもの話に意識して耳を傾けましょう。大人でも答えを求めるのではなく、ただ聴いてほしいと思うことがあるように、子どもも同じように思っていることが多いのです。忙しいなかではありますが、少しでも隙間の時間を作ってもらえると、子どものなかに安心してチャレンジしようとする気持ちが育つと思います。子どもにはすてきな大人の背中を見せて。言葉で伝えるより、大人の姿勢や行動が生きていくうえでのモデルになります。

＜先生方に＞

・先生方には、とにかく「一緒に頑張りましょう！」という思いが一番です。先日、児童の救急対応をした後に、協力してくれた子どもが「学校の中で保健室の先生が一番大変なんだー」と声をかけてくれました。学校の先生はそれぞれの立場で大変なことがあるのですが、人の大変さに気づき、伝えてくれる子どもたちがいることを思い、苦勞も多い業務ですが、心がほっこりすると同時に勇気づけられました。

他の養護教諭からは

子どもたちに対してこんな声も（要約）

・自分の体は自分でつくるよ！健康に生活できるって当たり前のことじゃないです。今の生活が未来の自分をつくるし、今、食べているものが自分の体をつくり成長に繋がります。そう考えたら、なりたい自分は自分でつくれる気がしますね。

・頭痛で「なんだかしんどい」で保健室を利用する児童の多くが、就寝時間が遅いです。ほとんどの児童が熟睡します。インフルエンザが予防できるように、頭痛も原因によっては予防できます！9時までに寝る、スマホやゲームを使用するときは家庭のルールを守るなど自分で行うことは取り組みましょう。自分のからだを自分で守ることのできる人になってくれるとうれしいです。

・最近、頭が痛くなっていたり、体がだるくなっていたり、なんとなく元気がでない…ということはないですか？当てはまる人は、睡眠不足が原因かもしれません！小学生は、9～12時間、中学生は8～10時間の睡眠時間が必要です。早く寝るための方法は3つ。朝に日の光をあびること。休みの日も同じ時間に起きること。日中に体を動かすこと。睡眠を味方につけて、毎日元気に過ごしましょう♪

「しんどい時も、話を聞いてもらおうと楽に。誰にも言えない時は保健室へ。」

＜子どもたちに＞

・学校は楽しい所です。学校生活を楽しんでください。友達と過ごす時間、学べる環境を大事にしてほしいです。勉強するにも、運動するにも、心と体が元気でなければ、前向きに取り組めません。今、みなさんは成長期です。基本的な生活習慣を身に付け、しっかり身体を作りましょう。毎日の生活の中で、しんどくなる時もあるでしょう。そういう時は、誰かに話を聞いてもらおうと、楽になることもあります。誰にも言えない時、一人で抱え込まず、いつでも保健室に話しにおいて！

＜保護者の方に＞

・思春期の子どもへの対応に困っていませんか？そういう時は、いつでも相談にのりますので、保健室へ話しに来てください。親も悩むことが多いと思いますが、思春期は子どもにとっても悩みや不安を持ちやすく、不安定な時期です。子どもに寄り添い、しっかり関わってあげてください。保健室では「元気」だけでなく「しんどい」という気持ちも丸ごと受け止めたいと思っています。学校と家庭で手を取り合ってお子さんの成長を支えていきましょう。

＜先生方に＞

・子どもたちは、そここで見せる顔があり、保健室で見せる顔があります。子どもへのアプローチの仕方は違いますが、保健室も同じゴールをめざして取り組んでいます。情報を共有しながら、一緒に取り組んでいきましょう。日頃からいろいろな方面にアンテナを張り、連携を大事にするよう心掛けていますのでよろしくをお願いします。先生方の悩み事もいつでも相談にのりますよ。



畑野奈美江養護教諭（中央中学校）

他の養護教諭からは 保護者と同僚に対してこんな声も（要約）

＜保護者の方に＞

・大切なことは、直接目を見て話すこと。時にはスキンシップしながら褒めたり、言葉で納得できるように叱ったり。一緒に楽しく食事したり、早めに寝たりしながら、過ごす時間を楽しんでほしいですね。
・子どもから話しかけてきたときはぜひしっかり会話、対話してほしいです。中学生の場合、こちらから声をかけると、うとうしうそにすることも多い年頃なので、子どもから話しかけてきたときはチャンス。しっかり話を聞いた上で、伝えたいことを話すようにしています。
・学校での健康診断の結果で受診を勧められている場合は、早めに医療機関に相談に行くことをお勧めします。

＜先生方に＞

・保健室に来る子どもたちはもちろん、気になる子の連携をこまめにとりたいです。先生方はお忙しいと思うのですが、私たち養護教諭は、チームの中で子どもたちだけでなく先生たちも支える一員だと思っています。先生方一人で抱え込まず、そして私たちとも子どもたちを守るために連携をお願いします。
・教室での出来事などの情報があると子どもたちのことがわかりやすいので、養護教諭にたくさん声をかけてください。
・保健室に来室している生徒の顔を見に来て声をかけることを、今までと変わらず続けてください。

「成功も失敗も全て自分の財産になる」-失敗を恐れず挑戦- 添島 美岐 (そしま みのり) 教諭 (高屋西小学校)

- ① 教員になろうと思った理由…子どもが好きだから。親戚の中では一番年上で、小さい子の世話をすることが多く、子どもが成長する姿を身近に見られることに魅力を感じるようになった。
- ② 座右の銘…「成功も失敗も全て財産になる」自分にも失敗を恐れる気持ちはあるが、「やってみよう」と挑戦する勇気が湧き、元気が出る。
- ③ 小学校の頃の思い出…活発で木登りが大好き。けがもよくした。親の転勤で小学校は3校に通った。
- ④ 趣味・マイブーム…ジブリの作品を鑑賞すること。「魔女の宅急便」の中の「そんなに形にこだわらないの。大切なのは心よ。そして、いつも笑顔を忘れずにね。」というセリフが好き。

実は1年前から、次はどここの学校へ行くのかとドキドキして不安でした。東広島市は私にとって初めての土地でしたが、先生方がとても温かく、いつも支えてくださるので安心してがんばることができました。高屋西小学校へ来て本当によかったと思います。また地域とのつながりがしっかりしていることも有難いです。3年生は総合的な学習の時間の学習で大根を育てていますが、支援して下さる地域の皆さんの「一緒に子どもを育てていきましょう」という思いが伝わってきて、とても心強いです。



この1年間を振り返ると、初めて受け持つ校務もあるなど、挑戦することの多い1年でした。子どもの人数が前任校より多く最初は戸惑いがありました。しかし、次第に限られた時間内にできることが増え、「1日の中で必ず学級の

全員と声を交わし、関わる」と心に決めたことを続けることができました。自分でも成長したなと感じています。これからも子ども一人一人としっかり向き合い、子どもと一緒に学ぶ、解決する、広げていくという姿勢を大切に授業づくりに取り組んでいきます。そして、子どもたち全員が自分らしさを発揮して、「学校へ行くことが楽しい」「学ぶことが楽しい」と思えるように、日々挑戦していきたいです。

「あなたがいて良かった」-誰かこう思ってもらえるような生き方を- 藤井 陽介 (ふじい しょうすけ) 教諭 (板城西小学校)



この春、東広島へ異動になり、あっという間に時が過ぎたように感じています。新しい環境の中、分からないことだらけでしたが10月には、研究会も経験するなど、とても充実した年になりました。

私の両親は小学校の教員で、子どものころから「将来は何となく教員になるものだ」と思い教職に就きました。そんな私は、働くようになって初めてこの仕事は、とてもやりがいのある魅力的な仕事だと思えるようになりました。今は、この仕事が大好きです。そう感じるようになったのは、これまで出会った先生方、子どもたち、支えてくださった保護者の皆さんのおかげだと思っています。今改めて『あなたがいて良かった』と伝えたいです。そして、自分もこれから出会う人や自分の周りにいてくださる方にそう言ってもらえるようになりたいです。

そのためにも、目の前の子どもたちが「この先生に出会えてよかった！」と思えるような関わりを積み重ねていかなければと考えています。これからも私自身が好奇心旺盛であり続け、子どもたちと一緒に様々な課題を見つけ、わくわく新鮮な気持ちで毎日を過ごしていきたいです。

- ① 小学校・中学校の思い出
小学生の頃は、とにかく好奇心旺盛で自然豊かなふるさとの野山や川を駆け巡って遊んでいた(ゲームをするより外遊びに夢中)。ある日、小学校の池にいる魚を見て、友達が「あの魚、捕まえられるか」というので、「よし。」と、そのまま池に入った。魚を捕まえる前に教頭先生にみづかり、こっぴどく叱られたことを覚えている。
- ② 気分転換…寝ること(とにかくよく寝る)
高校の野球部のメンバーと集まって野球で汗を流すこと。
- ③ 趣味…筋トレ 鍛えれば鍛えるだけ体が変わっていくの目に見えるので自己肯定感が上がる。
- ④ 座右の銘…“あなたがいて良かった”
今まで、いろいろな人に出会い、支えられ、いろいろな体験、経験をさせていただき多くのことを学んできた。

進んで学ぶ、仲間と学ぶ
自主研究サークル紹介
とっかつ東広島

歴史は浅いけど、世界も視野に

今回紹介する「とっかつ東広島」が発足したのは令和5年。特別活動が好きなメンバー3名が集まり、準備会を6月に行ったあと、7月29日に発足しました。

これまで開催月は不定期でしたが、今年は年間3回(7月・10月・2月)をめどに活動する計画です。これまでは広島大学の若松昭彦名誉教授ご夫妻のご支援もあり、市外、県外からの参加者もありました。

今、特別活動は「TOKKATSU」の呼び名で、エジプトをはじめ世界中で「特色ある日本の学校教育」として注目されています。昨年度のアカデミー賞の候補にもなった山崎エマ監督の「小学校〜それは小さな社会〜」は、2024年12月に公開された長編ドキュメンタリー。その中には次の印象的なメッセージがあります。

「6歳児は世界のどこでも同じようだけれど、12歳になる頃には日本の子どもは日本人になっている。」



サークルデータ

- ・代表者 加古谷孫一郎(福富小) 矢田貝 彩香(龍王小)
- ・設立年 令和5年度
- ・所属人数 約15名
- ・開催期日 年3回(7月・10月・2月) 金曜日 18:00~
- ・場所 サンスクエア研修室

リレーコラム「私の出会った子どもたち、先生たち」

今回は、小学校から高等学校まで保健室を支え、県立教育センターで指導もされた光川かおる先生です。

ぜんそく
喘息児童とのかかわりが養護教諭としての原点



光川かおる 先生

S49.4 東広島市立寺西小学校 養護教諭

S58.4 東広島市立平岩小学校 養護教諭

H2.4 広島県立教育センター指導主事

H7.4 東広島市立川上小学校 養護教諭

H9.4 東広島市立志和中学校 養護教諭

H13.4 東広島市立高美が丘中学校 養護教諭

H16.4 広島県立広島中学校・広島高等学校 養護教諭

H26.3 退職

H29年度まで広島県内の小中高校の初任者養護教諭の指導にあたる。

■初任校で

当時の寺西小学校には、喘息治療のため広島県内各地から国立療養所広島病院(現東広島医療センター)に入院しながら、学校に通ってくる子どもたちがいました。第3病棟がそうした子どもたちの寝起きする場所で、1年生から6年生まで、多い時には40名以上が学校に通っていたのです。

学校で喘息の発作が出たときには病院から許可を得て吸入器を使用しましたが、吸入しても発作が治まらないときには病院から看護師さんに迎えに来てもらっていました。ある程度発作は治まっても、その後の学校生活は続けられそうもない時は、学校から寺家のバス停まで一緒に歩き、バスの運転手さんに一言お願いして乗せてもらっていました。バス停まで行く途中でしんどくなり歩けなくなった子を背負って行ったことも何度かありました。1年生から親元を離れ、自立した生活をしなければならぬのです。親に甘えたいときにも甘えることもできず、みんなどんなにか我慢したことでしょう。

ある日、尾道から入院していた子が居なくなったことがありました。学校中が大騒ぎで、関係機関と連携を取りながらの捜索の末、西条駅と西高屋駅の中間地点で見つかりました。家に帰りたい一心でJRの線路沿いに行けば家に帰れると思い、線路を伝って歩いて帰ろうとしたのです。

ときには、嫌な場面から逃れるために疑似的な喘息様発作を起こす子もいました。「疾病利得(疾病によって周囲の人から優しく、配慮などを受け取ること)」という言葉も知りました。そんな時にはよく様子を観察し、その子の背中に耳を当て喘鳴の音を聞いて、発作かどうか確かめていました。このような場合、本人の話や思いをよく傾聴し、担任としっかり連携することが欠かせませんでした。発作が軽く腹式呼吸で治まりそうだったときは本人の横に座り、号令をかけながら一緒に腹式呼吸をしました。そして発作が治まった経験はその子の自信にもつながりました。

残念ながら親元を離れての生活に耐えられず、喘息治療を断念して早期に退院した子もいましたが、多くの子どもたちは病院での集団生活に慣れて治療しながら学校生活を送り、完治とまではいかないけれど喘息発作が軽減され、退院していきました。その姿を見ることは私の喜びでもありました。

病気の基礎知識、疾病利得のこと、養護判断、ヘルスカウンセリング、教育相談、生徒指導、担任教諭・保護者・関係機関との連携など多くのことを学びながら、子どもたちが元気で楽しく学校生活が送られるよう支援していた日々、養護教諭の私の原点は、喘息児童との関わりだったのです。

■広島県立教育センターの職員として

寺西小学校から平岩小学校に異動しても喘息児童との関わりは続いていましたが、養護教諭になって16年がたち広島県立教育センターに異動になりました。配属されたのは教育相談部。右も左も分からないうちに新任指導主事研修があり、細部にわたる職務や役割が説明されるなか「力のない者は去れ」という言葉を聞き、私も一年で去ることになるかなと思ったのです。

職務内容の一つに、県内各地からの長期・短期研修に来られた先生方への指導があります。私は、一年間の長期研修生への不登校対策の研修を担当しました。全国的に不登校児童生徒が増加したころでした。私が担当した一人

の先生は、研修を終えるとき「僕は光川先生が担当で本当に良かったです。自由にのびのびと研修させてもらいました。感謝です。僕が光川先生に質問しても『うーん、そうじゃねえ』と言われました。その時自分の中で結論がまとまりました」と言われたことがあります。私の力不足ではっきりとした指導ができなかっただけなのですが、自分で解決することを促すような問いかけも必要なんだと感じました。ちなみに力量のある指導主事に担当された研修生は、研修報告書を3回書き直したと聞きました。

当時の教育センターはたくさんの桜の木がある名所で、敷地内が一般公開され多くの花見客が来られていました。外では弁当を持参した見物客が楽しく賑やかにされていても、建物の中の私たちには一年間の講座の構想や計画会議など仕事が山のようにあり、毎年「ああ、また一年が始まる」という気持ちになったもので、私は年度初めの桜の季節が嫌いでした。

そんな日々のなか5年間働いた教育センターでは、県内各地から研修に来られた先生方、全国の教育相談担当者の方々と交流でき、私の心の幅を広げることができました。感謝です。

■中学校、高等学校の養護教諭として

その後勤務したのは県立広島中学校・広島高等学校でした。保健室は仕切りもなく、中学生と高校生が共通してやってくる大きな一つの部屋でした。中学生は心の揺れが大きく、関わりに戸惑うこともたくさんありましたが、生徒が保健室で本音が出せるよう心掛けました。

相談した生徒が「他の先生には言わないでほしい」と言ったときも、生徒には柔らかなトーンで、納得できるように丁寧に説明し、他の先生にも情報提供するようにしました。迷うこともありましたが、組織の一員であることを念頭に、関係職員と情報共有しながら多面的理解と方向性を出して生徒に関わることで、より良い支援に繋がっていったと思っています。

中学生の時は私より小さかった生徒も、高校生になるころには随分と大きくなります。幼稚で喧嘩をしたりいざこざを起こしていたりした生徒も、高校生になると判断力がつき責任感が強くなります。立派な大人としての対応ができるようになっていくその姿には、目を見張るものがありました。中学校・高等学校の6年間を通して成長する姿には感動を覚えたものです。

日々、中学生や高校生から「みっちゃん」と呼ばれ、元気をもらっていた私も、退職してほぼ10年が経ちます。振り返ると、小学生から高校生まで多くの子どもたちとかかわってきましたが、すべての子どもたちがその時々の時で頑張っていたと思います。その成長していく姿には胸を打つものがあります。そして多くの職場で多くの先生方に出会ったことにも感謝です。ありがとうございました。

PS 養護教諭の先生方へ 私が心がけていたことです。養護教諭の仕事は一人ではできません。何か計画しても、先生方の協力があって一つのことが達成できるのです。また、実施に向けては逆算しながら計画を進めなければなりません。「先を読む力」が大切になります。その力があれば、仕事もスムーズに進み、職場の人間関係も良くなります。どうか自分自身も含め職場の中でより良い人間関係を築いてください。